

会 議 録

《会議名称》 令和6年度 第2回岸和田市緑地保全等審議会 《開催日時》 令和6年 11 月 1 日(金) 15：00～17：00 《開催場所》 岸和田市職員会館2階 大会議室	承認															
	会長	竹田委員														
	12/2	12/6														
《出席者》（緑地保全等審議会委員出欠状況） <table><tr><td>下村 会長</td><td>堀田 副会長</td><td>上野 委員</td><td>川原 委員</td><td>田口 委員</td><td>竹田 委員</td><td>松井 委員</td></tr><tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table> (委員7名中、7名出席)			下村 会長	堀田 副会長	上野 委員	川原 委員	田口 委員	竹田 委員	松井 委員	○	○	○	○	○	○	○
下村 会長	堀田 副会長	上野 委員	川原 委員	田口 委員	竹田 委員	松井 委員										
○	○	○	○	○	○	○										
岸和田市) 河畑 建設部長 事務局) 水とみどり課 黒見、渡邊、川端、奥、竹原 (株)公園マネジメント研究所 恵谷、日高																
《傍聴者》 1 名																
《概 要》 ■議題 1.議案第1号 岸和田市みどりの基本計画における各施策について ■その他 1.岸和田市屋内プール整備基本構想について																
《内 容》 ■岸和田市緑地保全等審議会の会議及び会議録の公開に関する要領等について (会長) 令和6年度第2回岸和田市緑地保全等審議会の会議録承認者として竹田委員を指名。 ■議題 1. 議案第1号岸和田市みどりの基本計画における各施策について 議案第1号について、事務局より説明。 【質疑の概要】 ① 岸和田市内の公園緑地等の状況把握について (委員) 人口動向について、「将来についても需要が見込まれる」という見方の根拠について、もう少し説明が聞きたい。 (事務局) 国勢調査による住宅の所有形態を元に予測しており、持ち家が多ければ年代構成がそのまま上にスライドしていく、借家が多ければ人口流動が生じやすく「子育て世代が多い」といった状態がある程度継続しやすいのではないかと考えている。 (委員) 借家が多いからといって人口流動が生じるわけではなく、例えば駅からの距離が遠い地域であれば、利便性の面で都市の方へ人口が流れて、過疎化が進んでしまうことも考えられるが、そこはどうだろうか。 (事務局) ご指摘の状況は考えられる。地域ごとに検討を行う際は、地域の実情を踏まえ行うことが望ましい。 (会長) 人口動態について、この審議会で議論することは少し無理があるので、どの資料やデータを使うか検討しながら、地域の状況を考慮して進めてほしい。 (委員) 「公園が充足していない」地域については、その次にはどう対応していくのか、という議論にな																

と思うが、地域特性が異なるので、同じような方針にはならないだろう。

（事務局）いまはどちらかといえば重複しているところ、過剰なところを客観的に分析することを主に行っており、不足するところにどういう手当をしていくのかは、次のステップで検討したい。

（委員）公園が過剰な状態になっている地域でも、地域により、公園の整備経過が異なると思う。開発提供公園が多いのか、または、市が整備したものなのかどうか。

（事務局）いま問題になっている狭小公園は、開発提供公園として昭和 50 年代以降に作られたものが大半で、その狭小公園をどうしていくかが、全国の自治体で頭を悩ましているところである。

（委員）充足状況で、3 つの項目を指標とすることのわかりやすさは、評価したい。公園の周辺環境によって、随分と印象が異なる。どういった公園があるのかによって、その地区の価値なども変わってくると思われるので、そうした視点も取り入れてはどうか。また、公園以外の農地や農園も教育や子育てなどに貢献している。そうした土地利用の活用にも注目してほしい。

（事務局）3 つの指標については、事務局としてもしっかり打ち出していきたい。

（会長）岸和田市の児童遊園は、児童福祉法に基づくものか。

（事務局）本市の児童遊園、ちびっこ広場はほぼ開発提供公園であり、児童福祉法に基づく公園とは異なる。

（会長）本来、住区配置論に基づいて計画的に進めていくもののなかに、開発にともなう狭小公園ができているところが課題だ。そこを地元管理にしている自治体もあるので、本市でも住民参加・企業参加の仕組みを盛り込むことを考えていったらどうか。

（事務局）本市では、今はすべての公園の管理に一括して指定管理者制度を導入している。その指定管理者が各町会などに清掃維持管理を委託しており、この取り組みは古くから行われ、当時は先進的な部分もあったと思うが近年では、高齢化等の進行により、受託が断られることも多くなっているのが現状である。

（会長）都市のコミュニティのあり様が変わっているので難しい状況下だが、それだけに市民のアンケートやワークショップを通じて、市民参加を促していくことは不可欠だろう。

（事務局）現在、市では立地適正化計画の検討を行っている。将来的に、公園の施設配置もこうした計画の内容と関連して検討していくことが考えられる。

（委員）ビッグデータの活用等について、「公園の面積に比して、どれくらいの人数が利用していれば十分利用されている」といった指標はあるのか。

(事務局) ビッグデータを活用することで見えてくることは多いが、それだけでは不足する情報も多いので、個別の小学校区などで公園の利用率を探ることが目的であれば、アンケート調査等を組み合わせる必要がある。

(会長) 小さな公園の利用状況を探る方法としてビッグデータは有効だが、ほかにも色々な調査方法があるので、手間はかかるが現地調査などの手法も組み合わせることを考えて欲しい。

(委員) こども基本法でも、自治体の施策に子どもの意見を尊重することが位置づけられているので、そこに取り組む姿勢は評価したい。アンケートが一般的な手法だろうが、個別の取り組みが見えてくる段階ではヒアリングや意見交換をすることも考えられる。

(委員) 利用については、人が多い公園が常に良いとは限らない。例えば発達障害を抱えている人など、人が少ない公園でゆっくりと落ち着きたい人もいる。「誰も取り残さない社会」を考えるうえで、そうしたことも考慮に入れて欲しい。

(委員) 公園は、生物の生息環境でもあり、自然と親しむという視点も重要になる。

(会長) 生物生息、エコロジカルコリドー（野生動物が生息できる重要拠点をつなぐ生物空間）については、ある程度の規模がある公園が担うものかと思うが、都市内で自然環境に触れ合える場としての役割は重要なので、留意して欲しい。

② 市民意見・庁内意見の収集に向けた取組（案）について

(会長) この計画に反映していくためには、どのくらいの規模、どのような集計が可能なものとして実施するのか。それとも参考程度に収めるものなのか。

(事務局) 参考程度に収めるものが見込まれるが、具体的な調査方法等は今後検討する。

(委員) QRコードでのアンケートは、高齢者を排除することになる。電話での対応なども考慮してもらいたい。今後欲しい施設は、1つではなく3つにして欲しい。

(委員) アンケートの使い道によって、実施方法も大きく変わるので、もう少し考え方の整理が必要ではないか。「機能や施設」が公園の中のことだけの狭い項目になっており、まちに足りないものを探ることや、どういう使い方をしたいのか、につながってこないと思う。

庁内意見では、先に説明があった地域特性の捉え方、各課の見解などについても聞くべきだろうと思う。また、各課が持っているそれぞれの施策目標、実現しなければならない事柄に対して、公園がどのように役立ってるのか、公園に足りないものは何なのか、などは聞くべきだ。

(委員) 満足度を確認することで、何を求めているかが浮き彫りになるのではないかな。実施方法も、Web形式だけでなく紙媒体も併用すべきだ。全校区で聞くことが難しければ、子どもからの意見収集を重視するモデル地区を決めるなどの方法も検討して欲しい。

(会長) いずれにしても、アンケートの目的、目標成果に応じた実施方法をしっかりと考えて欲しい。

(委員) この施策が全体的なボトムアップの段階なのか、それともエリアによって差があって特に強化すべきエリアを選ぶべきなのか、によっても組み立てが変わると思う。この点はどうか。

(事務局) 現状どのように使われているか、どのような公園を求めているかを把握することを考えている。

(委員) その目的であれば、実施の手間なども考えて、特定のエリアでの実施だけでもよいのではないか。世田谷区の砧公園のように、インクルーシブを強化する公園を考えるという方法もある。

(会長) 大阪府下でも大泉緑地での例などあるので、研究して欲しい。

また、庁内意見やアンケートは、どこに使うか意図を持って、進めていただきたい。

■その他

- ・岸和田市屋内プール整備基本構想について。

事務局より説明。

(委員から質問、意見なし)

以上